

開講科目名	日本語II A			
成績入力担当	齊藤 美穂	開講区分		単位数
		第1クォーター		0.5単位
ナンバリングコード	R1JJ190	曜日・時限等	火1(対面)	時間割コード

授業のテーマ

日本語の文法についての理解を深めることにより、より高度で正確な日本語の運用能力を身につける。

授業の到達目標

専門分野の学習・研究に日本語で対応できるようになる。
日本語の文法を分析するための基本的な知識と態度を身につける。

授業の概要と計画

※本講義は基本的に対面で実施する。

日本語の文法についての理解を深めることにより、より高度で正確な日本語の運用能力を身につける。専門分野の学習・研究に対応できる運用能力を養成する。

主な授業活動

- 1) 対象となる文法項目に関する講義
- 2) 練習
- 3) 「テキスト再現」(ディクトグロス)※

授業のスケジュールは以下の通り。*スケジュールは参加者のニーズに応じて変更することがあります。

※ディクトグロスでは、聞き取った文章の再現を求める。与えられた語彙リストを見ながらメモなどを取らずに文章を聞いたあと、聞いた文章を適切に再現する。これにより正しい文を構成するための文法に対する意識を高める。

- 1回目 (4/14) : ガイダンス、基本用語の確認
2回目 (4/21) : 品詞
3回目 (4/28) : 格助詞ととりたて助詞①、クイズ
4回目 (5/ 7) ※ : 格助詞ととりたて助詞②、ディクトグロス
※5/7(木)は火曜日の授業日。
5回目 (5/12) : 格助詞ととりたて助詞③、クイズ
6回目 (5/19) : 自動詞と他動詞①、ディクトグロス
7回目 (5/26) : 自動詞と他動詞②、クイズ
8回目 (6/ 2) : 復習及びテスト

全8回 (15時間)

成績評価方法

試験 (40%)、授業参加度(30%)、クイズとディクトグロス (15%)、課題 (15%) で評価する。

成績評価基準

1. 試験及びクイズとディクトグロスは、学習事項の理解度と応用能力で評価する。
 2. 課題は、実施状況と出来栄で評価する。
 3. 授業参加度は、授業への参加態度と主体的な参加度で評価する。
- ※出席率70%以上を満たすことが、成績評価の前提条件となる。すなわち、この条件を満たさない場合、自動的にF(不可)とする。

履修上の注意（関連科目情報）

対象者：

本授業は上級レベルの日本語科目である。中級レベルの学習を終えている、または、GEC-JTestで「上級レベル」と判定された学習者を対象とする。

交換留学生（特別聴講学生）可。

関連科目：

日本語Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ、日本事情Ⅰ

事前・事後学修

事前学修：テーマとなる文法項目についてこれまでの学習を振り返っておくこと。指示に従って資料を読んでおくこと。

事後学修：指示に従って、LMS上の課題に取り組むこと。また、教室外でも授業で習ったことを意識して、日本語を運用すること。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

オフィスアワー・連絡先

原則、クラス内で質問すること。その他、個別に相談が必要な場合は、齊藤に連絡すること。

オフィスアワー 水曜日9:00-10:30 @グローバルエンゲージメントセンター（旧グローバル教育センター）3階齊藤研究室またはオンライン。これ以外の時間は事前に予約をとること。

メールアドレス：msaito [AT]people.kobe-u.ac.jp

※上記のアドレスの [AT] の部分をアットマーク @（半角）に置き換えた上で宛先に入力。

学生へのメッセージ

文法を「知る」だけでなく、適切に「使える」ようになることを目指しましょう。

今年度の工夫

上級学習者になっても難しいと思われる文法項目を中心に扱います。受講者間で文法についてディスカッションする機会を設けます。

教科書

ハンドアウトを授業時に配布する。

参考書・参考資料等

以下参照。授業時にも随時紹介。

現代日本語文法2 第3部格と構文 第4部ヴォイス / 日本語記述文法研究会：くろしお出版，2009，ISBN:9784874244609

日本語文法演習 助詞 / 中西久実子、庵功雄：スリーエーネットワーク，2010，ISBN:9784883195404

日本語文法演習 自動詞・他動詞、使役、受身ーボイス / 安藤節子、小川誉子美：スリーエーネットワーク，2001，ISBN:9784883191925

授業における使用言語

日本語

日本語

キーワード

日本語 上級 文法 品詞 助詞 他動性 交換留学生（特別聴講学生）可